

2022年7月28日

各位

会社名 株式会社 坪田ラボ
代表者名 代表取締役社長 坪田 一男
(コード番号：4890 東証グロース市場)
問合せ先 執行役員管理本部長 清水 貴也
(TEL 03-6384-2866)

非視覚型オプシン（光受容体）をテーマとした世界初のシンポジウム「Biology of the Non-Visual Opsins」における「バイオレットライト仮説」に関する発表のお知らせ

株式会社坪田ラボ（東京都新宿区）代表取締役 CEO・坪田一男が、2022年7月29日（金）、30日（土）の両日、アメリカ・シアトルのワシントン大学サウスレイクユニオンキャンパスにて開催される学術シンポジウム「Biology of the Non-Visual Opsins」において、近視抑制に関する「バイオレット仮説」に関する発表を行うことがこのほど決定しましたので、お知らせいたします。

本シンポジウムは近年、近視抑制をはじめ様々な機能を持ち、脳の機能解明の手がかりになることも期待されるなど、大きな注目を集めている網膜上の非視覚型オプシン（光受容体）をテーマとする世界初の学術集会です。米国、欧州、日本からここ数年で飛躍的に発展したこの分野の第一線の研究者が領域横断的に集い、最新の研究成果の発表とそれに基づくディスカッションを行います。

坪田はこの中で、近視をテーマとしたセッションのモデレータ（座長）を務めるとともに、”Violet light hypothesis for myopia control”（近視抑制のためのバイオレットライト仮説※）と題した講演を行います。また弊社と共同研究を実施している慶應義塾大学の栗原俊英専任講師、早野元詞特任講師もそれぞれ近視抑制、脳と行動に関する研究についての発表を行います。

本シンポジウムではそのほか、近視関連遺伝子、代謝関連遺伝子、サーカディアンリズムなど非視覚系光受容体に関連する様々なテーマの討議が行われます。

坪田は本シンポジウム参加にあたり、「非視覚型オプシンはまだ未知の部分が多く、それ故に大きな可能性が秘められている。世界の最先端を走る研究者に我々の最新の成果を伝えるとともに、彼らの様々な成果に触れることで、世界により大きな果実を生み出すきっかけになるはずだ」と話しています。

※バイオレットライト仮説

弊社代表の坪田一男が慶應義塾大学医学部眼科学教室の教授職にあった 2016 年に発表した仮説。ヒヨコを用いた動物実験とヒトの臨床研究を通じて、波長 360～400 nm（ナノメートル）の光（バイオレットライト）が眼軸長の伸長を抑制することを世界で初めて発見し、バイオレットライトが近視の進行抑制に効果がある可能性を見い出しました。弊社ではこの仮説に基づき眼鏡型機器 TLG-001 を開発。現在、医療機器製造販売承認に向け検証治験を進めております。

以上